

から、これをはばむことは出来ません。テレビではすぐ反応するので、考えたり、話をよく聞くということがなくなってしまう。

もちろん反応が早くなることも大切ですが、どこに重点をおくかをまず考えて、話をよく聞くとということをお忘れさせないようにしたいものです。また、修正のしかたによっては、子どものものにかなりなると思われます。

(2) 方言

石田 小さいときに、無理に正しいことばづかいのわくの中に入れてしまうと、子どもの自由なことばの表現を縮め、発達をはばんでしまいます。あまりメチャメチャでは困りますが、はじめて他県から来て一年生を受持った先生が、方言を使わないように努力すればするほど子どもは先生から離れていく、というように標準語に抵抗を感じてしまう場合もあります。小さい子どもは共通の理解力、使用は出来ないのですから、無理に押しつけないで、正しいことばをだんだんに教えていくことが望ましいと思います。小学校一、二年では、先生に言うことばはなるべく教科書に

のっている程度のことばを使うようにしますが、あまりやかましく言う子どもは表現力が縮んでしまうから注意します。

(3) 語法

助詞の誤りは言語意識が不十分であることにも原因しますが、小さい頃からあいまいにされた発音がそのまま通ってきた場合に多いようです。これを急に直すことは難しいので、ふだんから正しいことばを指導するようにし、子どもにも、どうしてまちがったかという意識の過程を理解させるようにします。例々あつめた石の名まえがあんまりよくしりませんでしたは「わからなかった」という意識をもちながら「しりませんでした」となってきた。これをすぐ「を」になおすのは考えものである。

幼稚園では、ある程度使いわけるといいうらいでよいでしょう。順序が違ふとか文法に合わないとか言つてやかましく言うことはありません。特に幼稚園の先生は、文法意識を強くもたないようにする方がよいと思います。

(お茶の水女子大学付属幼稚園にて)

幼児の教育 第五十七巻 第十号

十月号 © 定価五十円

昭和三十三年九月二十五日印刷

昭和三十三年十月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼

発行者 津 守 真

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌の購読についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。